

金山町イザベラバート記念碑前にて

気になる案件のその後①……………2

三戸人ビックアップ特集……………3

平成29年度三戸町一般会計決算……………4

平成29年度決算特別委員会……………6

一般質問……………8

三戸消防団の定員を削減など（議案審議）…11

議員活動レポート……………12

気になる案件のその後①

～子育てサポート祝い金～



3人以上の子どもを持つすべての家庭の 3人目以降の子どもに支給することに



このことについて、6月に開催された定例会の一般質問で、佐々木和志議員が次のような質問を行い、これに町長が答弁しています。

町ではことし4月、第3子以降の子どもも養育している家庭の経済的負担を軽減するため「子育てサポート祝い金」制度をスタートしました。

しかしながら、例えば第1子が社会人となった場合には、第3子が18歳以下であっても支給されないなどの要件があり、制度がわかりづらいという意見が聞かれました。

Q、第3子以降への助成における条件緩和について

「今年度から実施の、第3子以降に特化した助成事業について、第1子以降の子どもが生計が別だと対象外という条件が示された。

これは保護者の経済的負担の軽減、第3子以降の出生数増という本来の目的から逸脱している。

着実な効果を見出すためにも、条件から外すべきではないか？」

町長答弁

子ども子育て会議などで検討いただき、改善したほうがいいとなればその意見を組み込み、周知したい。

その後の町の対応

【子ども子育て会議での検討】

町では、支給要件が複雑で分かりにくいという意見もあったことから、子ども子育て会議を開催し、見直しを検討しました。

会議では委員から次のよ

うな意見が出されました。

○ 平等公平に支給されるのがよいのでは

○ 3人目は3人目である

○ 子どものために使うお金を考えるならば、大人の要件は取り払う方がよい

○ 支給要件がなくなれば、どんな子もサポート

してもらえる

【制度を見直しました】

これらの委員の意見を受け、「子どもを税上の扶養控除の対象としていること」の支給要件を廃止しました。

つまり、経済的に独立し、扶養から外れた子どもも合わせて3人以上の子どもを持つ家庭の、3人目以降の子どもを支給対象とすることに改められました。

新たな制度は9月からスタートし、8月下旬に全世帯にチラシを配布したほか、10月には18歳以下の子どもがいる全世帯に申請書類

を郵送しています。

制度に関する疑問や質問は、役場住民福祉課へお気軽にご相談ください。

三戸町役場住民福祉課

☎ 20-1151

○受給対象者（次のすべてに該当）

- 共通
 - ・ 3人目以降の子どもを養育している父か母等
 - ・ 旬税や児童手当等を滞納していない方
- 出産祝い
 - ・ 旬内に住所を有している方
 - ・ 引当額が1年以上経過している方
- その他祝い、支援金
 - ・ 6か月以上旬内に住所を有している方

○申請方法
18歳以下の子どもがいる全世帯に、10月頃に申請書類を郵送します。住民福祉課に申請してください。

○申請時期
出産祝い：4月から受け付けます。
その他祝い、支援金：11月から受け付けます。

○開始年月日 平成30年4月1日から

※ 出産祝い以外、生活保護及び児童扶養手当受給者には対象外です。

項目	金額	対象年齢・方法
出産祝い	50万円	平成30年4月1日以後の出産祝い
小学校入学祝い	3万円	平成31年1月に養育者の戸籍に振り込みます。
小学校給食費・教材費支援金（6年間）	21万円 (3万円×6年間)	平成31年1月に養育者の戸籍に振り込みます。
中学校入学祝い	4万円	平成31年1月に養育者の戸籍に振り込みます。
中学校給食費・教材費支援金（3年間）	13万5千円 (4万5千円×3年間)	平成31年3月に養育者の戸籍に振り込みます。
中学校卒業（高校入学）祝い	5万円	平成31年1月に養育者の戸籍に振り込みます。
高等学校等教材費支援金（3年間）	9万円 (3万円×3年間)	平成31年3月に養育者の戸籍に振り込みます。

＜今までのメニュー＞

子ども医療費（小中学生完全無料） 総32万円

保育料の軽減 約129万5千円
(第3子以降完全無料)

対象： 出生 5歳児 小1 小6 中1 中3 高1 高3



さんのへびと とらねこたいしょうの三戸人ピックアップ特集

「住みよい町内会づくりのために」

～三戸町町内会連合会役員の皆さんをピックアップ!～

馬場のぼる作「11 ぴきのねこ」こぐま社刊より



9月28日、町内の各町内会長で構成される、三戸町町内会連合会の役員の皆さんから、現在の町内会運営について、現状やご意見を伺いました。

◆参加された皆さん

藤村立夫会長（八日町）
金崎公正副会長（城南）
大山金作副会長（大舌）
佐藤 正理事（箸木山）
番屋 博光理事（杉沢）
※本文中敬称略

◆議会だよりは読んでいますか？

藤村「町の議会だよりと広報は必ず読んでいます」

◆現在の町内会の現状はどうですか？

藤村「人口減少や少子高齢化の中、世帯が減っている。一人暮らしの高齢者が亡くなることにより空き家が増えており、放置された空き家が壊れても所有者の親類に連絡が取れないなど、対策に頭を悩まされている」

◆町内会の運営で困っていることはありますか？

金崎「若い人が減っていて、町内会の仕事を担う後継者が不足している」

藤村「関根一号線の工事の進捗がよく、よく聞かれるが、町からはつきりとした回答が得られない」

番屋「町内会運営経費である会費収入が、世帯の減少で減っている。リサイクル

収入で補っているが、まだ厳しい」

大山「大雨のたびに壊れる道路がある。また、冬場の除雪が遅く、子どもたちが学校を休まざるを得ないことがここ数年ある」

佐藤「お年寄りが多いので、積極的に集まって百歳体操などをしていきたいが、なかなか集まってくれない」

◆議会や町にご意見、ご要望はありますか？

番屋「崩れたり壊れている道路が複数ある。特に大きいところ何とかしてほしい」

大山「畑に動物が侵入し、作物を食べている。ワナの設置をお願いしたい」

番屋「杉沢もシカが増えてくる。熊はもう日常茶飯事」

佐藤「町営住宅を安く払下げてはどうか」

◆広報編集委員から質問はありますか？

船場委員長「町内会活性化補助金は活用しています

か？」

藤村「町内会館の備品を整備し、喜ばれている」

澤田道憲委員「議会だよりに要望はありませんか？」

藤村「一般質問する人が固定化されているのがさびしい。ほかの議員ももっと質問してほしい」

佐々木委員「町と町内会連合会の懇談会で出された意見は反映されているか。出た意見を議員も共有できれば議会でも話すことができるので、そういうシステムを作ってもらおう、町内会から要望してはどうか？」

藤村「ありがとうございます。ぜひそうします」

◆取材を終えて

各町内会共通の悩み、独自の問題など、多くのご意見を聞くことができました。皆さんのご意見を、議員としても町へ積極的にはたらきかけてまいります。

（広報編集員長 船場清治）

平成29年度三戸町一般会計決算

皆さんの税金の使いみちは
適切であると認定しました

平成29年度実施の主な事業

収入



ふるさと納税による寄付
1億826万円

支出



三戸町、三戸中央病院ホームページリニューアル
637万円

支出



消防団12分団消防ポンプ自動車購入
2,003万円

支出



11ぴきのねこ誕生50周年事業
736万円

支出



畜産・酪農収益力強化対策事業費補助金
1,973万円

支出



武士沢橋・遠小橋補修
1,616万円

平成29年度の町の主な事業を行う一般会計の決算額は、前年度と比べて収入0.7%減、支出0.6%の減となりました（詳しくは次ページ）。

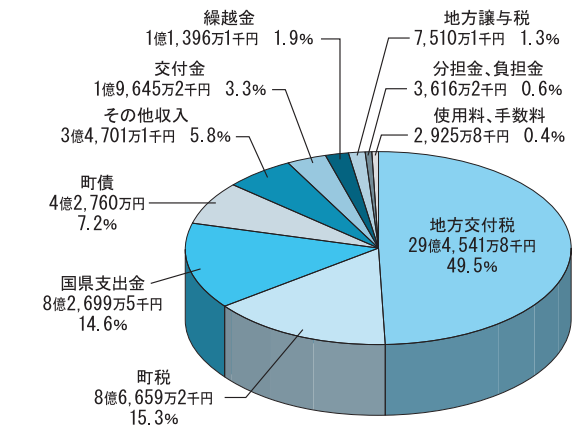
減収の主な要因は、28年度は臨時福祉給付金、地方創生関係交付金、認定こども園整備事業費補助金などの収入があったことによります。

また、支出減の主な要因は、28年度は認定こども園整備事業や産地パワーアップ事業に伴う普通建設事業などの支出が多額であったことによるものです。

決算概要

第476回定例会が8月29日から8日間開催され、議案19件を審議・可決したほか、決算特別委員会を設置し、一般会計を始めとする平成29年度の町の8つの会計すべてを認定しました。

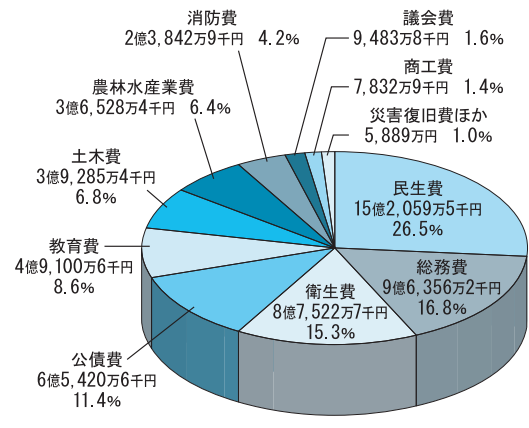
平成 28 年度一般会計決算状況



収入

計 59億4906万円

地方交付税	町を運営していくうえでの財源不足を補うために、国から交付されるお金
国県支出金	町が実施するさまざまな事業のために国や県から支出されるお金
町税	町民税、固定資産税等の税收
町債	町が国や金融機関等から借り入れるお金
交付金	地方消費税、自動車取得税等の収入から一定の割合で町に交付されるお金
繰越金	昨年度の会計からの繰り越したお金
その他収入	町の土地貸し付けや売却の収入等
地方譲与税	ガソリン税や自動車重量税等の国税から一定の割合で町に譲与されるお金
分担金、負担金	主に、保育所や児童館に入所している保護者が納める施設負担金
使用料、手数料	町の施設使用料や町営住宅入居料、戸籍発行手数料など



支出

計 57億3322万6千円

民生費	児童・老人・障がい者などの福祉事業経費
総務費	交通安全、絵本のまちづくり、税金の徴収、選挙等の経費
衛生費	予防接種や健診、ごみ収集の経費
公債費	町の借金返済のための経費
教育費	小中学校、給食センター、公民館等の運営経費
土木費	町道の維持等に係る経費
農林水産業費	米、果樹、畜産等の農業振興のほか、河川浄化などに係る経費
消防費	消防署負担金や消防団運営等の経費
議会費	町議会運営に係る経費
商工費	商工業者への支援や観光振興のための経費
災害復旧費	台風等の災害被害復旧のための経費

(単位：円)

会計別		歳入	歳出
その他の会計の決算	学校給食共同調理場特別会計	40,343,091	40,080,244
	簡易水道事業特別会計	37,521,127	35,525,174
	下水道事業特別会計	273,079,595	267,206,326
	後期高齢者医療特別会計	122,119,216	121,398,806
	介護保険特別会計	1,839,372,756	1,717,258,984
	国民健康保険事業勘定特別会計	1,747,592,519	1,669,428,514
	三戸中央病院事業特別会計	1,669,520,023	1,649,056,819
		収益的収支	136,648,000
		資本的収支	269,887,244

平成29年度 決算特別委員会 私たちはここを チェックしました!



主な質疑

一般会計

地方交付税減少の 要因は何か?

Q 佐々木和志委員

地方交付税が、昨年度比3.5%、一億円強の減という説明があったがその要因は?

A 総務課長

国が算定している基準財政需要額が、減少した一方で、基準財政収入額が、市町村民税や固定資産税の増により、収入があると見込まれたため。

返礼品リンゴの品質 確認はしているのか?

Q 船場清治委員

ふるさと納税が一億円を突破し、大変いいことであり、返礼品のリンゴも多く出ているようだが、これは各協防連にお願いしているのか、個人なのか。また品質は統一し、確認しているのか?

A まちづくり推進課長

各協防連の会議に出席し、協力してくれる農家を紹介してほしいという話をしていく。品質に関しては全提供者による目ざろいできていないが、値段等により一定のレベル以上のものの提供をお願いしている。



返礼品で人気の三戸リンゴ

コミュニティバス 改定はどのように?

Q 山口菊男委員

コミュニティバスの改定や路線の見直しはどのように行われているのか?

A 総務課長

地域公共交通会議を開催し、さまざまな観点から審議している。平成29年度はイオンタウン線を増やしている。

ふるさと納税の収支は どうなっている?

Q 久慈聡委員

ふるさと納税が一億円を越え、返礼品には3千万円がかかっているが、広告費などの経費がどのくらいか、収入はどの程度なのか?

A まちづくり推進課長

寄付金が1億826万円、そこから返礼品3,209万円、ポータルサイトの利用料などの経費1,058万9千円を差し引いて、6,557万円が残る。制度上、半分以上は残すよう進めている。



ふるさと納税のポータルサイト

地場産品販路拡大 事業の効果は?

Q 佐々木和志委員

地場産品販路拡大事業によって新規販路拡大につながったのか、その効果は?

A まちづくり推進課長

千葉市で行われた展示会でぶどうぶるサイダーやジョミサイダーなどを持っていき、スーパーマーケットやネットショップ経営者など26人と名刺交換し、2人から見積り依頼があった。しかしながら、ジョミサイダーはバイヤーの関心が非常に高かった。



注目を浴びたジョミサイダー、ぶどうぶるサイダー

移住定住者のため町営住宅を増やせないか？

Q 山口菊男委員

町営住宅は、解体ばかりで新しいものが増えていない。三戸町に移住したい、暮らしたいという人のためにも考えるべきでは？

A 建設課長

若者の移住、定住、生活基盤の確保の意味で需要である。空き家も目立ってきているので、それを借り上げるなど、最適な方法を精査し、関係課とも情報共有しながら進めたい。



老朽化・解体の進む町営住宅

学校給食共同調理場特別会計

給食無料化に向けた町長の考えは？

Q 山口菊男委員

学校給食の無料化は町長の公約でもある、無料化に向けての町長の所見は？

A 松尾和彦町長

町の財政、さまざまな事業の進ちよくを踏まえ、かつ保護者以外の町民の理解も必要であり、タイミングを含めて検討中である。

介護保険特別会計

認知症支援員の実態は？

Q 大向信市委員

介護保険料滞納で差し押さえを受けた人が1万6千人と報道があった。三戸町の実態は？また、認知症支援員は何か所に何人いるのか実態は？

A 健康推進課長

滞納による差し押さえは

町長にはありません。

認知症地域支援員は、家族と医療機関や支援機関を繋ぐ役割を担っており、役場に人を配置している。

国民健康保険特別会計

国保運営協議会はだれが何を審議しているのか？

Q 大向信市委員

国保運営協議会は12人いるが、どういう立場で選ばれているのか。

これは国保税の軽減を図る委員なのか、町の国保税の問題を解決するための委員なのか？

A 住民福祉課長

協議会は法律で設置が義務付けられている。

内訳は保険医、保険薬剤師から4人、開業医、薬剤師から4人、被保険者4人、公益代表者4人となっており、保険税や、国保事業全般について意見を伺っている。

反対討論

大向信市委員

年々保険料や税を払う人の生活が苦しくなっている中、さらに消費税が10%に引き上げられる。制度により負担させるのではなく町行政で工面する努力をすべきであり認定できない。

賛成討論

久慈聡委員

本会計は、子どもから高齢者まで幅広い世代の町民が必要な医療を安心して受けるための事業が推進されているものであることから認定に賛成する。

(賛成12・反対1で認定)

三戸中央病院特別会計

常勤医確保の見通しは？

見通しは？

Q 佐々木和志委員

当初の赤字予算が500万円の黒字決算になったものの、一般会計からの繰出しがなければ赤字である。経営改善のためには内科

医以外の常勤医を確保し、患者を増やすべきであるが、今後の見通しは？

A 松尾和彦町長

県の医療業務課とも話をしており、また、自治医大卒の医者の派遣の要請もしている。

県内のへき地医療の拠点病院となること、自治医大が医師を派遣する一つの条件となる。

状況は厳しいが、住民が安心して受けられる医療体制の構築に向け、これからも努力したい。



山口 菊男 議員



Q1

下水道事業の今後について

環境保全に限らず、定住、Uターン、移住促進の面からも、生活環境整備は重要だが、町民の下水道への認識が薄く、負担も多く、理解が得られていない。

毎年1億円以上を本予算から繰り入れながら事業の好転が見通せない中、これからの下水道事業の方向性について伺います。

①事業完了年度、総事業費は
②事業費の起債、町負担額は
③集合処理と個別処理のメリット、デメリットは
④事業凍結、中止、縮小する決断はあるかどうか
⑤総合的観点から個別処理に移行すべきではないか

Q. 下水道事業の凍結、中止、縮小の決断はあるか？

A. 現在の利用者が使用できなくなり、非現実的

A 町長答弁

①町中心部は平成32年完了予定で費用は50億円。全体計画では最終的に100億円程度の試算となっている。

②平成32年度までの町の負担、起債額は事業費の2分の1の24億5千万円の見込み。

③集合処理方式である公共下水道は、市街地では経済性に優れ、浄化槽設置用地も不要。管理も自治体が行うのがメリットである。

デメリットは整備に時間と費用がかかる、各自の希望する接続時期に合わない場合があることなど。

個別処理方式である合併浄化槽は人口密度が低い場所では集合処理より経済的に優れるメリットがあるが、耐用年数が短く、各自での管理

Q2

学校教育と小中学校教諭の勤務実態について

子どもたちが当町で学んでよかったと三戸に愛着と誇り、志を抱きながら巣立つよう教育委員会と学校が一丸で取り組むことが義務・使命であることから

以下について伺います。

イ 授業の工夫、改善
ロ 心の教育の充実
ハ 健やかで、病気に負けない心と身体の育成
ニ 特別支援教育の充実
ホ キャリア教育の充実

A 教育長答弁

イ 校内研修で取り組んでいるほか、ICTも活用中。

ロ 立志科や小中の交流による充実にも努めている。

ハ 早寝早起き朝ごはんなどの、基本的な生活習慣の育成に努めている。

ニ 国からインクルーシブ教育システム構築事業の受託や支援を行う町職員を複数配置中。

ホ 立志科をとおして地域の職業学習・体験により推進中。

②学校教育の長時間の時間外勤務や、休日の少なさが明らかにになっている。町外では過労死ライン一歩手前という結果もあるが、当町の実態はどうか以下について伺います。

イ 現在の勤務実態は過労死ラインの教諭は過労での体調不良、休職者はないか

ハ 学校における働き方改革に関する緊急対策とは

ホ 特別支援教育支援員の役割保護者等からの学校への苦情、難題の処理の対応は

ト 勤務改善をどう図るつもりか

A 教育長答弁

イ 1日2〜3時間が多い状況であり、改善に努めている。

ロ 町内では該当はない。

ハ 過労による体調不良で休んでいる教員はいない。

ニ 事務の効率化、部活動の少年団移行や時間制限などに取り組む。

ホ 学習障害や発達障害など特別な支援が必要な児童への個別の対応。

ヘ 苦情対応は全職員、教育委員会でも共通理解を図り、説明にも組織的に対応している。

ト 休みやすい環境づくり、事務効率化による時間外勤務縮減等を図っている。

大向 信市 議員



Q1

11ぴきのねこ事業について

平成13年から行ってきたこの事業は16年目ですが、この10年を見ていると、毎年同じような企画が続いているが、こぐま社との契約に何か制約事項があるのか。ないのであれば、新たな追加事業の予定はあるのか伺います。

A

松尾町長

キャラクター使用の制約については、作品のイメージを損なわないよう配慮する必要がある。また馬場のぼる先生の著作物なので、使用する場合には使用許諾を得る必要がある。新たな事業の予定について

Q. 観光・歴史施設の老朽化への対応はどうなっている？

A. 観光客が安全安心に利用できるよう整備する

は、毎年こぐま社を訪問し、事業についての協議や意見交換を行っている。

今後もふるさと納税の寄付金を活用し、11ぴきのねこのまちを県内外に発信できる事業を企画し、活性化を図りたい。

再質問1

これまでの16年間で数千万円かけて馬場のぼる事業を進めているが、それだけの経済効果を上げたのか。

A

まちづくり推進課長

経済効果の算出は難しいが、グッズ販売を例に挙げれば、道の駅のグッズ売り上げ額は、平成29年度は926万円となった。これは50周年記念事業や昨年開発された「ぶどつぷるサイ

Q2

第2回公共施設安全性の管理について

第470回定例会の一般質問で、公共施設の管理状況について



ダー」「11ぴきのねこせんべい」などの新商品の売り上げが、平成28年度比2.6倍へ押し上げた。さらに今年度は29年度の売り上げを超える見込みである。また、太子食品が「11ぴきのねこ納豆」を発売予定であり、大きな経済効果につながると考えている。

A

松尾町長

て伺ってから1年以上経っているが、その後対応はどうなっているのか。
またその他の観光施設、歴史的名所についても老朽化が見られるが、観光客のおもてなしの観点から放置すべきではないと思うが、どう考えているのか伺います。

お祭り広場は駐車場の穴埋め、トイレの修繕、ステージへの雨どいの設置。ふれあい公園は芝生に車が入らないよう看板の設置。これらを昨年度実施した。

消防署向かいのベンチは補修中である。今後も観光客等が安心安全に利用できるよう整備を進めたい。

再質問2

ステージの周りが壁がなく空洞になっているが、壁にして、郷土芸能の絵など描いてはどうか。また、ふれあい公園には日影がなく、鉄製遊具はやけどするほど熱くなる。屋根等で日陰を作れないか。

A

まちづくり推進課長

遊具は屋外で元気に遊ぶためのものであり、屋根はつけない。鉄の部分が高温になることも含め、負傷防止のため注意表示などで対応したい。



補修された消防署向かいのベンチ



お祭り広場のステージ

澤田 恵 議員



Q1

職員の人事異動について

職員の人事異動について3点質問いたします。

① 毎年4月に人事異動が発令される。

ある程度長期間の在職を求められる職種もあるが、逆に長期に在職させるべきでない職種もある。また、その課・係の経験年数の長い職員がいることにより能力があがったり、経験年数の浅い職員ばかりで構成されていることにより能力が低下することも考えられる。

例えばこの職種は3年、あの職種は4年で異動させる

Q・町職員の人事異動に判断基準はあるのか？

A・業務内容や職員の状況を総合的に見て判断している

といったような基準があるのか伺います。

② 一定の部署には長く置かないといった基本的な考え方はあると思うが、数年以上も同一部署から移動しない職員もあり、逆に1年、2年で異動している職員も見受けられる。

極端な長期在職者、短期在職者について、どのような考え方に基づいて対処しているのか伺います。

③ 職員の昇任にあたって、管理職試験を実施している団体もある。

試験には良い点、悪い点あると思うが、試験制度についてどのように考えるか伺います。

A 松尾町長

① 明確に定めた基準はないが、経験年数や職務内容、職員の年齢などを参考に人事異動を行っている。

② 在職年数については、部署や、担当業務の内容により、専門性や技術力が求められたり、一般性が求められたりと、業務内容や職員の状況を総合的に見て対処している。

③ 管理職試験は政令指定都市などの大規模自治体で実施されているが、受験者減少で廃止している例もある。

試験による能力評価と、人物・業績評価のバランスが難しいこともあり、町では研修などを通じ能力面のほか人材面の育成も行い、総合的な人

材としての評価を行っていく。

再質問1

病気などで長期にわたって休んでいる職員もいると聞いているが、その人の分も誰かが仕事をしなければならぬわけだが、どう対処しているのか。

A 総務課長

病気休暇により欠員となった場合、原則としてその課内で仕事を分配している。

それでもなお人が足りず仕事を回せないとすれば、臨時職員の配置や業務の見直し、複数の課にまたがった仕事の融通するといった対応になる。

再質問2

人物評価はどのように決めているのか「人材面での育成を行い、総合的な人材になっていたうえで評価を行い」と答弁されたが、実際どのような方法で評価するのか。

A 総務課長

全体的な評価として、人事評価制度を設けている。

職員個人が毎年目標を立てて業務に取り組み、それを上司が評価する仕組み。その評価により町長が最終的な人事判断を行う。

再質問3

人事異動に関しての試験はないが、人事異動の前に職員からの要望などを聞いているか。

A 総務課長

前は異動を希望する職員が異動希望を提出していたが、現在は異動を希望しない職員を含め、全職員が異動前に提出させている。



案議 議審

三戸町消防団の定員を削減

実態に合わせ総定員510人↓470人へ

三戸町消防団の設置及び定員、任免服務等に関する条例の一部を改正する条例案

【提案理由】

三戸町消防団の定員と実際の団員数にかい離があり、これについて三戸町消防運営審議会から、定員を削減することが妥当との答申を得たことから、各階級の定員を見直し、総定員を470人とするもの。

Q. 佐々木和志議員

単に団員数が減ったから改正するでは違和感を感じる。団員報酬等の処遇改善などに取り組む時期では。

A. 総務課長

これまで女性消防団、災害支援団員、協力事業所制度など実施した。報酬等は審議会

で諮り検討したい。

まとめ 佐々木和志議員

町は消防団員を増やす取り組みに消極的である。もっと町が主体となって取り組んでほしい。

団員の買い物ポイント制度や、報酬の直接支払いなど様々な意見が出ているはず。難しいと思うが、結果が出るような取り組みを考えてほしい。

その他の議案

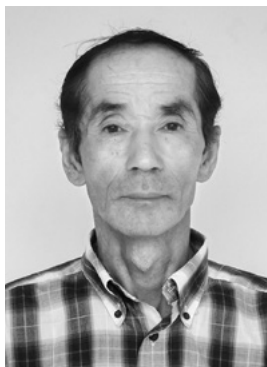
○三戸町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて（山崎貴行氏の再任）

○三戸町固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて（熊林正美氏の再任）

○三戸町人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて
（藤沢圭氏の再任）



○三戸町人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて
（齋藤正雄氏の再任）



○平成30年度三戸町一般会計補正予算（第3号）

【主な内容】

5月17日から19日の豪雨による災害復旧費など、約3,778万円の増

○平成30年度三戸町介護保険特別会計補正予算（第1号）

【主な内容】

過年度負担金返還金、居宅介護サービス給付費など約7,806万円の増

○平成30年度三戸町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第1号）

【主な内容】

過年度負担金返還金など約3,026万円の増

○平成30年度三戸町国民健康保険直診勘定三戸中央病院事業特別会計補正予算（第1号）

【主な内容】

経理事務の一部の委託料など2,380万円の増

追加提案

○三戸町監査委員の選任につき同意を求めることについて

【提案理由】

10月1日をもって任期満了となる沼邊義雄氏の後任として、新たに馬場行雄氏を監査委員に選任するもの。

○平成30年度三戸町一般会計補正予算（第4号）

【主な内容】

8月15日から17日にかけての大雨により被災した、農林水産業施設および公共土木施設の災害復旧費3,970万円の増。

※すべての議案が全会一致で可決されました。

※平成29年度三戸町一般会計歳入歳出決算認定については、決算特別委員会で審議されました（4ページから7ページ参照）

議員活動レポート



三戸町議会議員は総務文教、民生商工、建設農林の常任委員会のいずれかに所属しており、議会閉会中に各委員会が担当する分野について調査を行っています。また、さまざまな研修会にも参加し、議員の資質向上のため勉強しています。

総務文教常任委員会

船場清治・船場 栄
山口菊男・佐々木和志
坂本勝克

町有財産の管理状況を調査（7／23）

7月23日、町が所有する財産のうち、お試し暮らし住宅など6件の不動産の管理状況を調査しました。

【調査場所】

- ・お試し暮らし住宅
- ・旧病院院長住宅
- ・斗内小跡地
- ・移住促進用地
- ・旧仮庁舎
- ・目時駐在所跡地

【調査結果・意見】

船場清治委員長

斗内小跡地は、売却を広報に掲載するなど広く周知してほしい。

山口委員

お試し暮らし住宅については他自治体の実施状況を研究し進めてほしい。



坂本委員

移住促進用地は一筆だけでなく、分割購入もできるよう対応してはどうか。

民生商工常任委員会

澤田道憲・大向信市
久慈 聡・大平憲男
澤田 恵

三戸町社会福祉協議会を調査（7／24）

7月24日、町内福祉施設の概要について町健康推進課から説明を受け、その後三戸町社会福祉協議会およびシルバー人材センターの管理運営状況について調査しました。

【調査結果・意見】

澤田道憲委員長

社会福祉協議会について、パート、契約採用者が多く、平均年齢も高い。将来を担うヘルパー育成のためにも仕事に見合う給与にするなど、魅力向上を図ってほしい。

シルバー人材センターは会員が目標の500人に満たない状況ではあるが、意欲的に取り組んでおり、良好に運



営している。今後も積極的に活用を促してほしい。

建設農林常任委員会

北向 敦・中村喜正
和田 忠・工藤範光

農作物の生育状況などを調査（6／19）

6月19日、農作物の生育状況のほか、農業災害状況について調査を行いました。

【調査場所】

・水稻（貝守）・ねぎ（斗内）
・果樹（泉山）・農災（斗内）
・葉たばこ（斗内）

【調査結果・意見】

北向敦委員長

中山間交付金事業を活用したドローンによる稲の共同防除は、後継者不足により農業者人口が減少していくなか、作業の負担軽減を図る有効な取り組みである。葉たばこ、ねぎは順調に生育している。

リンゴの果実肥大は平年を上回るが、一部で黒星病が発生している。



発生木の伐採・抜根処理について、補助金の活用など十分な説明を行ってほしい。
サクランボは開花時の好天により良好である。

研修報告1

正副議長・事務局長研修会（9／14）

9月14日、三戸郡町村議会議長会主催の、正副議長・事務局長研修会が、八戸市で開催され、澤田議長、佐々木副議長、大向議員、久慈議員が参加しました。

研修会では講師に青森中央学院大学の佐藤淳准教授を迎え「今、なぜ議会改革が必要か」と題し講演が行われました（主な内容は14ページと同様）。この日は議会改革のほか、議員報酬や議員定数のあり方についても解説され、参加議員は熱心に耳を傾けました。



研修報告2

連携中枢都市圏の形成に関する勉強会（9／25）

9月25日、連携中枢都市圏の形成に関する勉強会が、三戸町を会場に開催され、全議員が参加しました。

この日参加した三戸郡内の議員はまず、さんのパークゴルフ場、道の駅さんのへ、S A N・S U N産直ひろばを視察しました。

その後の講演会では、総務省自治行政局市町村課の望月明雄課長が各地の連携中枢都市圏などの広域連携の最新の動向について解説されました。



視察報告1

大舌産廃処分場拡張事業完成見学会（9／3）

9月3日、大舌地区で進められていた三戸ウエイストパーク産業廃棄物管理型最終処分場の拡張事業の完了に伴う見学会が開催され、議員12名が各町内会長とともに参加しました。

参加者は大舌交流センターで事業に関する説明を受けた後、完成した処理場へ移動し、ウイズ・ウエイストジャパン社員から安全対策や排水処理対策などについて説明を受けながら、施設内を視察しました。



研修報告3

二戸市・三戸町・田子町議会議員協議会総会・研修会

「なぜ今議会改革が必要か」

講師 青森中央学院大学 佐藤 淳 准教授

8月17日、二戸市・三戸町・田子町議会議員協議会の総会・研修会が、住谷野で開催され、議員14名が参加しました。

研修会では議会改革やまちづくりの専門家で、青森中央学院大学准教授や早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員を務める佐藤淳氏を講師に「なぜ今議会改革が必要か」と題しての講演会が開催されました。

(概要)

議会というのは住民からは、何をやっているかわからないというのが本音。

議会側は議会基本条例なんて必要ない、制定してもそれで終わりといった議会が多く、改革が進まないのが現状である。

六戸町では議会基本条例に基づく議会報告会を楽しいものにするため、対面式からワークショップ形式に変更した。

形式の変更に当初は不安も見られたが、現在では高校生、大学生、婦人会、町職員といった団体ともワークショップを行い、住民との対話が図られている。

対話によって得られた意見をしつかり検証し、課題設定を行い、政策アイデアを練り政策提言していくことが重要である。



三戸町議会
Facebook 配信中!



三戸町議会
Twitter 配信中!

第477回三戸町議会定例会（12月議会）のお知らせ（予定）

12月4日（火）	10:00	開会、町長による議案の提案理由の説明
12月5日（水）	10:00	議員が議案を熟考するため休会
12月6日（木）	10:00	一般質問（議員が町政全般にわたって町長らへ質問を行います）
12月7日（金）	10:00	一般質問（予備日）、議案審議（条例改正など、議会の議決が必要な案件を審議し、採決します）

編集後記



さんのへ秋まつりが終わって2か月がたち、冬に向かって、町が一番静かな季節になってきました。

にぎわいもさえもなくなつたようで、余計に少子高齢化や人口減少といった課題が身に染みて感じられます。

これから厳しい季節を迎えますが、その先にはまた春がやってきます。体調に十分気を付けて、この冬を乗り切っていただきたいと思います。

町も厳しい状況が続きますが、備えを万全にしてまた春が訪れるように、今できること、すべきことにしっかりと取り組んでまいります。

（佐々木和志）

議会広報編集委員会

委員長 船場 清治
副委員長 北 向 敦
委員 澤 田 道 憲
委員 山 口 菊 男
委員 佐々木 和 志
委員 澤 田 恵